

年間第14主日

福音朗読 マタイ 11・25-30

2023.7.9 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日の福音では、イエス様が「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのこととを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした」(マタイ 11・25-26)という、父である神様に対する感謝と賛美の言葉を述べていらっしゃる、そういうところから始まっていますが、聖書というものはこのように部分的に切り取って読むよりも、前後との繋がりで読むともっとその意味が見えてくるということもあります。

今日の福音の箇所などもそういう場所だと思うんですけども、今日の福音の直前は、イエス様が、ご自分の活動にもかかわらず、また、洗礼者ヨハネが人々に神の国が近いということを宣べ伝えたにもかかわらず、人々が受け入れない、回心しない、反応がないということについて嘆き、そして悔い改めない人々を非難する、そういう箇所なんです。「笛を吹いたのに、踊ってくれなかつた。葬式の歌を歌ったのに、悲しんでくれなかつた」(マタイ 11・17)っていう、まさに自分が一所懸命神様のことを宣べ伝えているのに、多くの人が反応しない、回心しないということについて非難している。

ところが、突然一転して、今日の福音の箇所で「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます」という賛美の言葉に急に変わるんです。その間に何があったのかということを考えさせる、そのような余白と言いましょうか、マタイの福音書がわたしたちに投げかけている課題なのではないかと思うんです。

イエス様は最初、ご自分の活動がみんなに受け入れられて、みんなが心を改めることを期待していたと思います。でも、その期待通りではない、物事が思った通りではないということに嘆き、そして聞き入れない人々を非難している。しかし、父である神様のものの見方でもう一度その現状、思っていたのとは違う今の状態を見直してみると、「ああ、そうか。分かりました。これが神様の御心だったんですね」って、「そうです、これは御心に適うことでした」って言うよりは、「そうですか。これは御心に適うことだったんですね」っていうイエス様

の気付きによる喜びの叫び、今日の福音の冒頭の部分であるということができるのでないでしょうか。

多くの人がこぞってイエスのもとに集まって来る、いっぺんにみんながイエスを信じる者になってしまったならば、社会において端っこにいる人々は相変らずイエスの周りにおいても端っこに位置付けることになる。イエス様に直接出会うことができなかつたかもしれない。しかし、多くの人がイエスに従わなかつたために、当時の社会においては箸にも棒にもかからない者としてみなされていたような、今日の福音では「幼子のような者」と表現されていますが、そういう者たちがイエス様に直接出会う、そういうことが可能になった。「それこそが父の御心だったんだ」というふうな、ある意味でのイエス様の気付きの場面であると言つてもいいと思います。

イエス様が神の子だから初めから一から十まで全部、父である神様の御心をご存知で、その御心のプログラムに従って淡々と行動していったということではないわけです。むしろ、その神である方が人間性をお取りになったということは、人間というのは先が見えないながら一つひとつ手探りで神様の御心に出会っていく、見出していく、そういう歩みをする存在であり、そのことについては人となられた神の子であるイエス様も例外ではない、ということができるわけです。

期待していたのとは違う現状において嘆いていた。しかし、父である神様の御心をもう一度知る、その思いで現実を見たときに、多くの人がこぞって信じるようにならなかつたことにも意味がある。端に追いやられていた人々がまずご自分に出会うことができた、ということだし、ご自分の役割、果たすべきことというのは、そのような重荷を負うような、疲れているような、幼子のような、社会において端に追いやられている、あるいは、取るに足りないとみなされている人々をまず招くことなんだという気付きですね、それに出合ったと言えます。

わたしたちも、いろんな人生の歩みの中で思っていたのとは違う、期待していたのとは違うような出来事に合うことが多くあるのではないかと思います。でも、その時に、ただ嘆き、そして思い通りにはならないそういう周囲の出来事や他の人々を非難するだけではなく、父である神様の御心がその出来事の中のどこにあるのかということを教えていただく、その思いで改めて振り返るときに、御心を見出し、また、その時に自分が何をすべきかということがより良く見えてくる、そのようなものではないかと思います。

今日の出来事は、ただイエスだから気付けたというよりも、人間がこのようにして思い通りではないことの中に神様の御心と、自分がその時に果たすべき役

割ということを見出していく、少しづつ見出していく、その歩みをイエス様ご自身が人となって示してくださっていると言うことができると思います。

わたしたちも、ただ自分のものの見方だけではない、父である神様の御計画との対話のうちに、必ずしも思い通りではない一人ひとりの人生の歩みの中に意味と、そして使命、導きを見出していくことができますように、イエス様と共に歩む思いを新たにして、今日も一人ひとりの中にそのイエス様の御心をお迎えしたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>